

当面のスローガン

- すべての市町村に「本人通知制度」を早期に導入させよう!
- 「人権侵害救済法」の制定をめざそう!
- 悪質な差別事件にたいして徹底的に糾弾しよう!



発行所  
解放新聞和歌山支局

〒640-8314  
和歌山市神前405-3  
TEL 073-473-2301  
FAX 073-473-2302

発行責任者  
中澤敏浩



実践報告する前岡優寛・代表

**奪われた文字をとりもどす**  
この交流会は、部落差別をはじめ、さまざまな課題によって教育の機会を奪われたことで、いまも文字のよみかきが十分でないこと

から、生活や就労などで課題を抱えている実態にある。こうしたなか、各地域で日常の識字学級でとりくんでいる識字生や指導者の活動報告、課題や悩みなどを話し合う交流をはじめ、今後のとりくみや社会全体

1月26日、27日にかけて、和歌山県教育委員会主催の「2012年度よみかき交流会」が白浜町のホテルシーモアでひらかれ、県内の識字学級生徒や指導者、行政関係者、警察関係者など約150人が参加した。

# 非識字を再認識 教え教ええられる相互関係を

よみかき交流会



紙芝居を発表する善明寺識字学級



紙芝居を発表する善明寺識字学級



学習資料



学習資料

**「被差別体験で非識字者に」**  
開会では、県教育委員会

より非識字の課題や識字活動をすすめていくための基調提案がおこなわれた。そのあと、西川和代（平井識字学級）さんの体験を代理で報告した合田一二三（同識字学級）さんから被差別体験のなかで非識字となっ

た当時の発表、善明寺識字学級からは、水平社結成にかかわってきた「西光万吉」の幼少からの生活を紙芝居にした実践報告がおこなわれた。

全体会場内に展示された各識字学級の学習成果を見学し、交流を深めた。その後、7つの分散会に分かれ、非識字における課題や日常の実践報告などの意見交流がおこなわれた。

## はじめて知った 非識字

分散会では参加した行政関係者から「情報としての認識はあるが、今日の分散会で再度認識を深めた」「自分の思っていた非識字のイメージとは違った」という意見が出され、非識字の問題が社会に十分に浸透していないことが感じ取れた。

2日目の全体会では、昨日おこなわれた各分散会報告のあと、いずみ識字ボランティアの前岡優寛・代表から「今度は、あなたが教える番です」と題し、和泉市における識字活動の実践報告とあわせ、識字生と指導者の「教え教えられる相互関係」や外国人の大学生ボランティアによる在日外国人への識字指導などが紹介され、2日間の「よみかき交流会」が閉会した。

## 頑健

「春霞(かすみ)」という季語がある。季語は古くから花鳥風月をめぐる言葉として生まれてきたもので、気候や天文、そして催事がベースになっ

ている。そんな季節になつたわけであるが、昨今、風流な話だけではいけない状況だ▼「霞」は、寒暖の差に空気中の水分が影響をうけ発生する自然現象である。最近では、その水分に黄砂・花粉、それにPM2.5(微小な汚染物質)が加わる重大な大気汚染の問題になつている▼日本において急激な経済成長が優先され、結果「水俣病」「四日市喘息」に代表されるさまざまな公害を生み出してきた。「光化学スモッグ」も懐かしい言葉である。最近でも多くの公害や薬害訴訟が未だ決着をみない。そして今、急激な経済成長を遂げている中国の事情が深刻▼昔、北京へ行つたときに、街中を「柳じよ」と呼ばれる柳の花が、綿のようにフワフワと空中を舞っているように感じられたことを思い出す▼今、中国で大気汚染によって、子どもをはじめ多くの人がとに深刻な健康被害を出している。日本でも、注意報などが出され、外出を控えるようにと呼びかける状況である。このままいけば、花鳥風月が危機に瀕し「春霞」が季語から消え、私が20年以上も前に見たアニメ「風が吹くとき」に登場する老夫婦がそう遠くない未来の私たち自身の姿になつているかも。